

洋11-20 (ショートコメント)

「キック・アス」 ★★★

2011 (平成23) 年2月11日鑑

賞<テアトル梅田>

監督：マシュー・ヴォーン

脚本：ジェーン・ゴールドマン、マシュー・ヴォーン

原作：マーク・ミラー、ジョン・ロミータ・Jr.

デイヴ・リゼウスキ、キック・アス/アーロン・ジョンソン

ミンディ、ヒット・ガール/クロエ・グレース・モレッツ

フランク・ダミコ/マーク・ストロング

クリス・ダミコ、レッド・ミスト (フランク・ダミコの息子) /クルストファー・

ミンツ=ブラッセ

デーモン、ビッグ・ダディ (ミンディの父親) /ニコラス・ケイジ

2010年・アメリカ、イギリス映画・117分

配給/カルチュア・パブリッシャーズ

◆ バットマン?スパイダーマン?いやキック・アス! そう言われても日本人は誰もわからないが、「アメコミ」に夢中のアメリカの若者たちにはスーパーヒーロー願望があるらしい。世の中は、こっちを見てもあっちを見ても悪がいっぱい。もちろん、ニューヨークに住むティーンエイジャーのデイヴ・リゼウスキ (アーロン・ジョンソン) が通う学校でも、「カツあげ」その他の悪は毎度のコト?

そんな中一人部屋の中でデイヴが考えるのは、「なぜ誰もやらない?」「本当はヒーローになりたいんだろ?」ということだが、ある日インターネットで注文した緑と黄色のコスチュームを着て颯爽と「世のため、人のため、正義のため」スーパーヒーローまがいの行動をとったところ、その結果は無残にも……。そりゃそうだろう。

◆ ところが、本作が映画として成り立ったのは、第1にデイヴについて「災い転じて福となす」という発想をうまく脚本にしたこと。第2にアメコミ特有のシリアスなストーリー展開(?)の中で無残にも妻を殺されたデーモン (ニコラス・ケイジ) とその娘ミンディ (クロエ・グレース・モレッツ) というホンモノのスーパーヒーローを誕生させたことだ。

しかして、本作の主演はタイトルになっているキック・アスだが、それを完全に食ってしまった影の主演は、クライマックスですばらしい活躍をみせる1997年生まれの少女クロエ・グレース・モレッツ扮するヒット・ガール!

◆ 面白いストーリーづくりには悪役が不可欠だが、本作でのそれは、地元を仕切るマフィアのボスであるフランク・ダミコ (マーク・ストロング)。したがって、大人同士の対決はデーモン扮するビッグ・ダディVSフランク・ダミコ。しかし、あくまで本作のターゲットは若者だから、ストーリー展開が少しややこしくなることを覚悟のうえで、マシュー・ヴォーン監督はフランク・ダミコの息子クリス・ダミコ (クルストファー・ミンツ=ブラッセ) をキック・アスに対抗するレッド・ミストとして登場させた。

どんな社会でも組織でもホンモノとニセモノがあるのは当然。そして、スーパーヒーローをテーマとした本作ではその真贋は観客には最初から明らかだが、ストーリー上はそれが入り交じって展開していくところが面白い。取引現場で部下を殺され、大量のヘロインまで横取りされた悪党のフランク・ダミコは次第に追いつめられていったが、そんな悪と戦ったスーパーヒーローはキック・アス?それとも……?

◆ 本作のハイライトシーンではバズーカ砲まで登場し、なぜかフランク・ダミコがその犠牲になってしまう。さらにストーリーを盛り上げるためか、ビッグ・ダディも死んでしまうから、これにて『キック・アス』は一話完結、読み切り編の終了。一瞬そう思ったが、いや、まてよ。ラストではキック・アスと相討ちしたかのようなレッド・ミストがむっくりと起き出して日本刀を手にしたうえ、バットマンの好敵手である「ジョーカー」の口癖を口にしていたからひょっとして……。

いや、きっとそうに違いない。①CGを使いません、②ワイヤーを使いません、③スタントマンを使いません、④早回しを使いません、をうたい文句とし、ブルース・リー (李小龍) やジャッキー・チェン (成龍) に勝るとも劣らない(?) すばらしいムエタイ技を魅せてくれたタイ映画『マッハ! (MACH)』 (03年) (『シネマルーム6』194頁参照) だって、『マッハ! 弐』 (08年) (『シネマルーム24』194頁参照) が企画され実現したのだから、『キック・アス』のパートIIの登場は時間の問題……。

2011 (平

成23) 年2月12日記